

## 福島第一原子力発電所現地確認報告書

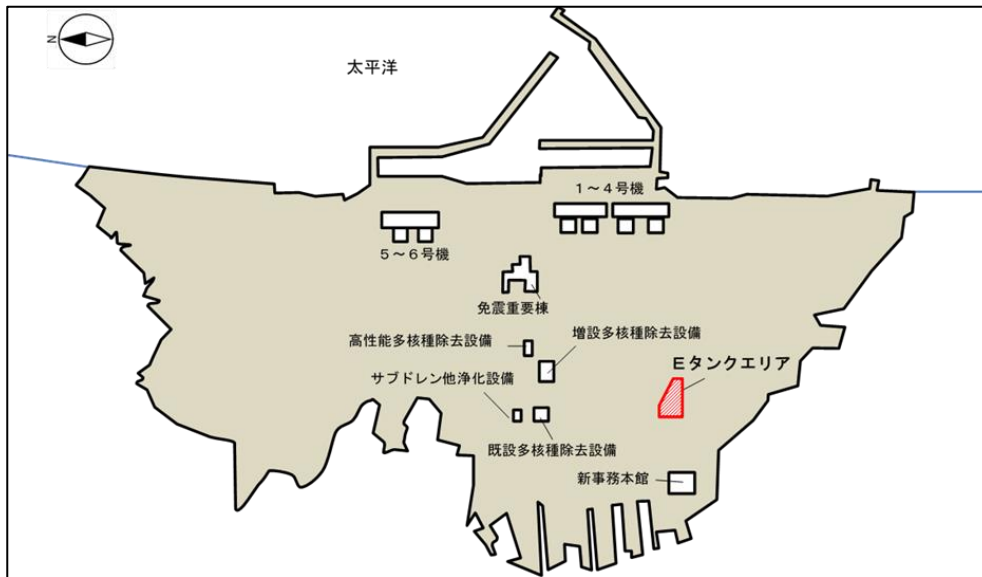
- 1 確認日  
令和3年10月15日（金）
- 2 確認箇所  
Eタンクエリア
- 3 確認項目  
Eタンクエリアフランジ型タンクの残水漏えい対策等の状況

### 4 確認結果の概要

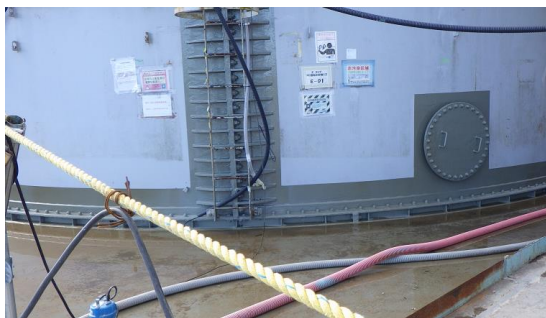
福島第一原子力発電所では、タンクからの漏えいリスク低減を図るため、ボルト締めフランジ型タンクの解体を順次進めているが、Eタンクエリアに設置しているタンクの一部に $\alpha$ 核種の濃度が建屋内滞留水と同程度である残水<sup>\*</sup>が確認されている。東京電力が当該残水の漏えいリスク低減対策を実施しており、その状況を確認した。また、併せて前回（5月31日）に引き続き、同エリアに設置されているその他のフランジ型タンクの解体状況を確認した。（図1）

- ・ $\alpha$ 核種を含む残水が確認されているD1、D2タンクに対し、漏えいリスク低減対策の一環として、フランジ部への止水材の上塗りが実施されていた。（写真1）
- ・東京電力によると10月末からタンク内の上澄み水をプロセス主建屋に移送するとのこと。
- ・フランジ型タンク全49基のうち42基の解体が完了しており、現場には解体中1基を含む計7基のタンクが残っていた。また、解体中の1基については、4段ある側板のうち上から3段目までが撤去されていた。（写真2）

※各エリアからタンク解体時の底部残水を受け入れたもの。事故後初期、汚染水からセシウム吸着装置でセシウムのみを除去処理した水を逆浸透膜装置で処理・濃縮した水。タンク内には、残水とともにスラッジの堆積も確認されている。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1)  
止水材の上塗りの状況



(写真2-1)  
前回の状況  
(令和3年5月31日撮影)



(写真2-2)  
今回の状況  
(令和3年10月15日撮影)



(写真2-3)  
解体中のタンクの状況

- 5 プラント関連パラメータ等確認  
本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。